

Affiliated with the International Association
THE Y S MEN S CLUB OF TOKYO HACHIOJI
Chartered October 30, 1994



〒192-0906
東京都八王子市北野町575-22
並木 真 TEL: 090-4314-3044
Fax: 042-649-5276
E-mail: mnamiki1020heartbeat@gmail.com

2023年11月

The Service Club of The YMCA

第341号

東京八王子ワイズメンズクラブ

会長 並木 真
副会長 久保田 貞視
書記 小口 多津子
会計 長谷川あや子
直前会長 花輪 宗命
担当主事 菅野 牧夫
ブリテン 山本 英次 茂木 稔
大久保 重子

国際会長 ウルリック・ラウリドセン (Denmark) 主題「輝かそう、あなたの光を」
スローガン「良いコミュニケーションは、全ての協力関係の基礎である」
アジア太平洋地域会長 利根川 恵子 (川越) 主題:「変革のための光となろう」
スローガン「親睦を通して、輝き、力を得よう」
東日本区理事 山田 公平 (宇都宮) 主題:「未来のために今、学びと気づきを！
未来のために、自信を育み、真の喜びに出会う！」
スローガン「ユースアクションをワイズの主要な活動の一つに」
あずさ部部長 森本 俊子 (長野) 主題「よい結果をもたらす心の安定と考える力
を」～面白いと思えることを再発見しよう～
八王子クラブ会長 並木 真 主題「リアルな活動とつながりを！出来ることをや

11月例会プログラム

【Zoom併用ハイブリッド例会】

(担当:A班 菅野、長谷川、佐藤、稲葉、小口)
日時:11月11日(土) 18:00~20:00
会場:北野事務所会議室(京王線・北野駅下車)
受付:小口、菅野 司会:長谷川

開会点鐘 並木真会長
ワイズソング 一同(伴奏・並木信一)
ワイズの信条 一同
ゲスト・ビジターの紹介 並木真会長
聖書朗読・開会のお祈り 小口
卓話:「AYC2023 ネパール大会・参加報告
中央大学ひつじぐも・AYC参加者
藤原湧介さん、岩崎葵さん、田中大翔さん、
藤原直輝さん、轟千佳さん

諸報告 会長・YMCA・各委員
スマイル 佐藤
ハッピーバースデー 並木真会長
閉会点鐘 並木真会長

参加Zoomミーティング

<https://zoom.us/j/92268082066?pwd=HbDc2RWZsdWtYZ3pDRlVlOR3eUwrQT09>

ミーティングID: 922 6808 2066

パスコード: 654978

巻頭言

あずさ部部大会を終えて

長谷川あや子

10月21日(土)あずさ部部大会も無事終わりました。80名の方からお申し込みを頂きましたが、お申し込み一番は富士山部部長の榎本さんと書記の金子さんからでした。何とも嬉しく心が弾んだものでした。お二人は東日本区のすべての部大会に参加されたそうです。アピールタイムの時、榎本部長は「富士山部部大会に来てもらいたいわからではなく、自分はいろいろな部の大会が見たいからという理由から参加しました。」とおっしゃいましたが、そんなワクワク感がすごく大事なのだと思いました。

先月の例会ポイント (10月)

| 在籍 | 13名 | 切手 | 0g |
|--------|-----|---------|---------|
| | | 22~23年度 | 計1698g |
| メン | 7名 | 現金 | 0円 |
| メイキャップ | 2名 | 累計 | 0円 |
| 出席率 | 69% | スマイル | 12,200円 |
| メネット | 3名 | 累計 | 48,630円 |
| ゲスト | 1名 | オークション | 0円 |
| ビジター | 2名 | 累計 | 0円 |
| ひつじぐも | 3名 | | |

今月の聖句(2023年11月)

子よ、私の教えを忘れず

私の戒めを心に保て。

あなたには、長寿と命の歳月が与えられ 平和が増し加わる。(旧約聖書・箴言3:1~2)

部大会の会場選び、プログラムの内容作りなど長野クラブ全員が一丸となって準備を進められました。

森本部長は「せっかく秋の信濃路を訪れて下さるのだから」と小布施や飯縄まで足を運ばれましたが、秋の観光



シーズン、コロナ後の人の動きも激しくなり、押さえられ苦慮していらっしゃいました。そこに光明あり、福島住職のお陰で善光寺事務局講堂をお借りできることが決まり、

どんなに喜んだことでしょう。

当日、3階の講堂入り口に大きな立派な立て看板があったのを覚えていらっしゃるでしょうか？あの看板も森本さんが市のコンベンションに申し込み、審査が通って出来たものです。3階の会場からは善光寺本堂、鐘楼、色づいた前庭が望め、本当に心の鎮まる思いでした。12時の梵鐘で開会点鐘、阿弥陀様も共にいらっしゃるという画期的な部大会でした。

今年度になってお二人の方、東京たんぽぽYサービスクラブの越智京子さん、東京武蔵野多摩クラブの小林文彦さんを天に送りました。お二人の御霊の平安を祈って黙禱から始めました。ワイズ、YMCAを愛してやまなかったお二人でした。お二人の先達に恥じないような働きが出来ますように・・・と祈ります。



国際表彰—エルマークロウ賞を受賞された後藤明久直前部長、ブースター賞を受賞された甲府やまなみクラブの仙洞田安宏さん、藤原一正さんが佐藤直前理事より記念の盾、メダルを授与されました。続いてAYCに参加した7名(あずさ部)の方たちに彼らを推薦したクラブ(甲府 21、東京西・東京サンライズ、東京八王子)を通しあずさ部より支援金をお渡ししました。閉会点鐘で第一部は閉じられ、続いて第二部懇親食事会、第三部、第四部へと会話は滞りなく進みま

した。長野クラブは7名の会員数ですが、森本部長、青山会長を中心に本当によく頑張られたと思います。私も及ばずながら書記のお役目を果たしホッと致しました。



第27回あずさ部部大会に参加して

久保田貞視

10月21日(土)12時より善光寺事務局講堂で長野クラブホストによりあずさ部部大会が開催され、当クラブからは、長谷川部書記、小口さん、花輪さん、久保田が出席しました。



第一部は長谷川書記のさわやかな口調の司会で、まず、最近逝去された越智京子さんと小林文彦さん

に黙とうを捧げ、開会となりました。最初に森本部長の開会点鐘、青山会長の歓迎の挨拶、部長挨拶。祝辞は、山梨 YMCA 総主事の中田純子さんに東日本区理事の山田公平ワイズと続き、国際表彰のエルマークロー賞は富士五湖クラブの後藤明久ワイズに、ブースター賞は甲府やまなみクラブの仙洞田安宏ワイズ、藤原一正ワイズに佐藤直前理事から授与されました。

第二部は懇親食事会で6人づつのテーブルで、食前感謝は福島ワイズ(住職)の仏式食前の感謝で始まり、弁当を食べながらの交流会となりました。

第三部は記念講演、福島ワイズによる「平和の懸け橋プロジェクトの今」で、エルサレムの現状について説明された後、30年前から続いている NPO 聖地の子供を支える会主催により今年8月に開催されたイスラエル—パレスチナ—日本の3か国の若者による広島・長野での平和交流について報告されました。現在、ロシアのウクライナ侵攻に続いて、パレスチナ・ガザのハマスのイスラエルにミサイルを発射によるイスラエルの反撃で始まった戦争で多くの民間人の犠牲者発生していることから為政者は隣国との複雑な関係はあるにしろ国民のために平和を維持する責務を忘れた行為に憤慨するとともに、若者による交流を通じて平和の維持・大切さを認識させられました。

第四部は記念公演で、落語・日本舞踊・邦楽コラボによる落語「お血脈」。善光寺由来のもので、快樂亭狂志師匠(噺)に舞・三味線・太鼓担当の4人による公演で善光寺の御利益をコラボにより面白い噺にしたものでユニークな試みでした。

青山会長の閉会点鐘で解散となりその後、多くが近くの善光寺常智院で美味しい精進料理をいただきました。今回は森本部長の幅広い人脈とおもてなし精神で有意義で楽しい部会となり感謝しています。

長野からのトーンチャイムが高尾の森に！

小口多津子



会は、あずさ部部長森本俊子さんの公式訪問例会。場所は、昼間使える会場ということで高尾の森わくわくビレッジでした。部長さん自ら卓話もということで、お話上手な森本俊子さんを皆でお待ちしました。お話の題は、「私とハンドベル」。

なんとこの為に、はるばる長野から、ハンドベルの小型版のトーンチャイムの箱を手に携えて、新幹線に乗せてこられました。このチャイムが詰まった箱は約8kgの重さとのこと。アメージング！とは、音色ばかりでなく、卓話の為にこの重さを携えた森本さんのことだと思いました。

森本さんは学生の時は、教師を目指して信州大学教育学部で教員資格と音楽のコースもとられましたが、選ばれた仕事は、なんとジャーナリストの道。地元民間放送局へ就職。長野オリンピックの時は、あの実況で一躍有名になったジャンプ競技の日本チーム、原田選手、船木選手のテレビ中継を隣で手伝っておられたとのこと。オリンピック開催後におこる会場維持の諸問題のお話。それでも、その中でこれまでずっと続いてきた音楽へと再び目覚めさせてくれたのが、ハンドベルの音色だったそうです。こんなに美しい音色が世の中に、と思われたそうです。欧米諸国では、その美しい音色から「神を賛美する楽器」と言われて、古くはロンドンのウエストミンスター寺院の鐘楼の鐘。このメロディーの鐘の音に魅せられた一人が、早稲田大学の太田重信総長で、すぐに日本へ音色を持ち帰り、その後、ほとんどの学校でチャイムに使われるようになったそうです。このお話のあと、私達も1人ずつに手渡されたトーンチャイムを指示通りに順番に振ると、この小学校の授業のチャイムが再現されました。

森本さんはこの音色に魅せられて、社団法人日本ハンドベル連盟に加入、高じて世界大会が行われたイギリス、リバプールへ参加してこられたそうです。長く日本ハンドベル連盟理事長を医師の日野原重明氏が務められていたそうです。リバプール大会の時に出席された時は90才を超えられていたとのこと。

ハンドベルにまつわるなかで、太田重信、日野原重明という著名なお名前に出会うとは思っていませんでした。2024年8月には、ハンドベル世界大会が浜松市で開催されるということです。

最後は、各自に渡されたチャイムを一つずつ右手に持って見つめる先は、正面の黒板に貼られた音符ならぬ、1

枚の大きな模造紙。お仲間の友人手作りというこの歌詞に付けられた印をもとに、各自の持ち場の音を奏でました。唱歌「ふるさと」のメロディーです。二番まで続けて演奏、気持ちの良い音が響き渡りました。高尾山のふもと、秋空のかきたへひびくような音色でした。



唱歌「ふるさと」を全員で合奏

スピル・オーバー効果の検証

ひつじぐも 委員長 大山 希

前回の原稿に引き続き、今回は、(皆さんご存じかもしれませんが)スピル・オーバー現象について考えてみようと思います。スピル・オーバーとは、何かの影響や効果が本来目的としていた対象や範囲を超えて他にも及ぶことです。放送や経済などの分野で使われることが多く、放送分野では電波が予想以上の範囲に届いてしまうこと、経済分野では経済政策や市場の変動が他国や地域に影響を与えることをいいます。



今回は、国際的な支援の際にスピル・オーバー効果を活用した事例をご紹介します。

スピル・オーバー効果について調べてみると、都市交通インフラ整備で活用されることが度々あるようです。JICAをはじめとする開発援助機関は、急激な都市化が進む途上国の都市を対象に都市交通インフラへの技術や資金協力を通じた支援を行っています。一方で、都市交通の整備について基本計画を提案しても、コストが膨大なため実現に結びつかない、あるいは、運営段階での資金ショートにより運行に支障をきたす場合があるとのこと、基本的な段階から実効性のあるインフラ整備ができるか、財政面での課題がありました。

しかし、途上国での研究・ヒアリングを積み重ねていくと、確かに都市交通インフラの開発には莫大な資金が必要

ですが、インフラが建設されることで、その周辺地域では民間投資が増え、公共交通志向型の都市開発が進み、固定資産税などの税収の継続的な増加が期待されることになりました。そこで、基本段階におけるインフラファイナンス検討の標準的なワークフローが提案されたそうです。



これこそスピル・オーバー効果であり、インフラ整備という当初の目的を超えた広い影響が見込まれ、財政的な持続可能性をもたらすと考えられています。

ただ、インフラ建設をやってみなければ実際にはどうなるかわからないので、支援を行う相手国政府との十分な議論が必要で、認識の違いが生まれないようにしなければなりませんと感じました。

今回は、ひとつわかりやすい事例を調べることができましたが、実際にはもっと複雑なのだと思います。JICAのYouTubeに詳しいスピル・オーバー効果が載っていましたので、気になる方はご覧になってみてください(英語の解説動画でしたので、私は内容半分わかったかな、くらいでした...)。前回に引き続き、原稿を書く機会をくださり、ありがとうございました。

東京YMCA山中湖キャンプ場開場100周年を迎えて：

所長 中里 敦

山中湖センター(以下:山中)は2023年に100周年を迎えました。100年という歴史はどのようにつづられてきたのでしょうか。

最初は小林弥太郎氏を含む4名が1923年の4月に駿河小山駅から明神峠、三国峠を越えて視察に訪れ、その年の夏にキャンプが行われた時から始まります。

この山中の歴史は100年間順風満帆だったわけではありません。

一番の危機は戦中、そして戦後にあります。それは山中の歴史だけでなく、日本における教育キャンプの歴史が途絶えてしまうかもしれない大きな危機でした。それを救ったのが主事原直治郎氏とその家族です。戦後もなく山中は不在地主となり、土地を手放す危機に陥ったと

き原家族が東京から山中湖に移り住み何年もかけてその危機を救いました。この働きは引き継いでいかなければならないことであり、東京YMCAのために移住したご家族の私たちに計り知れない労苦も忘れてはいけません。と思っています。

また、戦争はYMCA関係者も多くかり出されることになりました。山中で戦争の行く末を案じた若者が聖書に出てくる動物を刻んだトーテムポールを作り、そこに友情のあかしとして名前を刻んだといわれています。そして、残念ながら帰らぬ人となった名前の上には十字架が刻まれたという歴史もあります。山中には、この他にも書ききれない様々な先人たちの思いと、出来事が詰め込まれています。この記念誌などの形には残らない一つひとつの支えも100年の歴史をつづってきたと思っています。

キャンプの持つ力や魅力は、100年前と変わらない普遍的なものがあります。時に騒がしく感じることもありますが、100年の思いが詰め込まれたこの場所で、富士山と四季折々変わる自然の中に身を置くことは都会や日常とは違った時が流れています。その中に身を置きながら得るかけがえのない体験は、今だけでなく将来を生きる力を育んでくれると感じています。

今回の100周年では、クラウドファンディングによる募金も行っています。そこには募金をしてくださった方々の山中にたいする思い、願いが見て取れます。一つひとつの言葉が私たちの応援メッセージであり、山中がここにあり続けてきた価値を教えてください。また、一般募金でも山中に思いを持っている個人、団体から期待や応援メッセージとともに多くの募金が寄せられています。

これからの山中湖センターも多くの方に必要とされ、より価値のある場所としてあり続けられるよう努めていきたいと思えます。

ワイズの皆様もより一層のご支援をよろしく願いいたします。



東京YMCA 近況報告 11月 菅野牧夫

1. 9月23日、「第37回東京YMCAインターナショナル・チャリティーラン」が4年ぶりに都立木場公園で開催された。ウォーキング大会を16日間にわたり同時開催し、合わせて50チームの参加があった。当日は約1,500人でにぎわった。益金5,176,000円は東京YMCAと全国YMCAが行う障がい児支援プログラムのために用いる。
2. 今年山中湖センターが開設100周年を迎えたのを記念し、10月1日から「東京YMCA山中湖センター100周年記念募金」を開始した。先行してクラウドファンディングを行い、11月からは口座振込等による募金受付も始める。目標額は2,000万円とし、貧困等によりキャンプに参加できない子どもたち100人をキャンプに招待するプロジェクト、プログラム施設の新設、宿泊施設のリノベーションに用いる。10月28日の「山中湖センター100周年記念感謝会」をはじめ、10月20日の「チャリティーコンサート」、12月7日の「チャリティーゴルフ大会」、2月4日の「チャリティーボウリング大会」などの関連プログラムも予定されている。
3. 東京YMCA山中湖センターが開設100周年を迎えたことを記念して、10月20日、「山中湖センター100周年記念コンサート」が日本基督教団霊南坂教会で開催され、約110名が来場した。飯靖子氏（オルガン/ピアノ）、飯頭氏（ヴィオラ/ギター）、東京YMCA高等学院生徒有志（トーンチャイム）の演奏の他、後半はギターやピアノに合わせてキャンプソングを楽しんだ。益金405,535円は、山中湖センター100周年記念募金として用いられる。
4. 今後の主な行事予定
 - ・「山中湖センター100周年記念感謝会」10月28日
会場：山中湖センター
奨励：堀光雄牧師 記念講演：青山鉄兵氏（文教大学人間科学部准教授）
 - ・「国際協力一斉街頭募金」11月18日
会場：新宿駅周辺

今月の聖句によせて：11月度

想像を超える争いの多い日々。一人一人、掛け替えない命は、数字に取り替わっていくような錯覚にとられる日々。この現実をなかなか受け止めきれません。不安の多い日々の生活です。

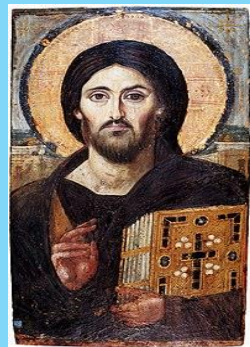
ある哲学者は、「今の社会に生きる人は、ただ一つのことを除いては、なんでもできるようになりました。その一つとは、魂の平安を得ることです。」と言っています。

また、ある高名な伝道者は、現代人は四つの不安を持っている、と言います。

1. 今にも死ぬのではないかと、死んだらどうなるか、という死の不安。
2. いつか失敗して生活に困るようになるのではないかと、という将来の生活に対する不安。
3. 一番近くて親しくあるべき人と、うまくやっていけない人間関係の不安。愛されない、愛せないことの不安。
4. 悪や、罪があばかれて、はずかしめや罰を受けたりするのではないかと、罪悪の恐れと不安。

これらの不安が払しょくされて、心に本当の平安がもたらされれば、こんなに喜ばしいことはないでしょう。

この喜びは、神を知り、神を恐れ、神の戒めを守り、神に与えられる近しい生活はそれかと、言います。



しかし、がどんなにむつかしいことなかも私たちは知っています。争いの中で、命を奪われ、命が脅かされている一人一人のために、

そしてこの一人一人は、すべて自分につながっていることを覚えて、真の平安がもたらされることを心から願わずにはられません。

並木 信一

わくわくビレッジ便

担当主事 菅野牧夫

わくわくビレッジの周りの木々も少し色づいてまいりました。秋はイベントの季節ですが、先月ご案内した通り10月28日(土)～29日(日)で「八王子城馬上弓くらべ」というお祭りが開催されました。馬に乗って決められた的に矢を当てる競技が行われました。私も知らなかったのですが、流鏑馬は馬に乗って3つの的を割って行く競技で、今回行った競技は的に当て、点数を競うものでした。

当日、私はオープニングセレモニーで武将のいでたちになって馬で練り歩きました。初めて着る着物に四苦八苦しましたが、脇差を差して陣羽織を着て気分は江戸時代の殿様になったようでした。着付けをしてくれた方に聞いたところ陣羽織は江戸時代のもので細川家の家紋が背中中の真ん中に入っている由緒のあるものだということでも心も引き締められました。最初は髷でもつけて、おちゃらけようかと思っていましたが、そうもいなくなりました。八王子は北条家ゆかりの土地で細川家はどうなんだろうとも思いましたが、馬に乗ることも含めてめったにできない体験できたと感謝をしています。

弓くらべ初日は競技会が行われました。選手が操る馬は日本馬でサラブレッドと比較すると小型の馬になりますが、原っぱを走る姿と蹄の音はとて迫力がありました。コースが短かったのであと50メートルほどあればもっと楽しめたのではないのでしょうか。2日目は選手の皆さんが馬を縦横無尽に走らせて舞の披露をしました。歩を合わせて舞う姿は美しいものでした。お客さんは少なかったですが、けがもなく無事に終了して安心しました。

11月にはわくわくビレッジのフェスティバルが行われます。動物が続きますが、新しい試みとして移動動物園が開催されます。小動物とのふれあいもあり、今度はポニーが子どもたちを乗せて歩きます。お孫さんと一緒に遊びに来てください。

流鏑馬：弓くらべ 菅野館長の雄姿



ひっじぐも便

ハロウィン

文学部2年の西成望

秋晴れの中、10月19日にみさわ児童館で恒例の「ハロウィン」というイベントが開催されました。このイベントは30名程度の子供たちと数人の保護者がそれぞれ仮装をして指定された3つのポイントを回り、お菓子をもらうというものです。ひっじぐもからは私を含めた8名が参加しました。当日は児童館 OBOG、地域の人も集まり総勢約15名のボランティアで子供たちと一緒に回る担当とポイントでお菓子を配る担当に分かれて活動しました。



私は、子供たちと回る担当になり列の後方で一緒に歩きました。今回の参加者は比較的低学年の子が多かったため、同じ目線に立って話すことを心掛けました。列が止まった際には自分が座って話を聞き、簡単な手遊びをすることでなかなか前に行くことのできない子でも楽しめるように振舞いました。加えて、交通指導の役割も任せられていたため、横断歩道を渡る時には、他のボランティアと連携しながら安全に渡れるよう見守りました。

活動全体を通して、子供たちの元気さに刺激を受けたとともに「ハロウィン」とは何かを我々に教えてくれたと思います。多くの人が渋谷をイメージするこの行事ですが仮装をして走り回り、自分の仮装のお気に入りポイントを話している姿を見ると、これが本来あるべき姿だと強く感じました。また、日頃接する機会がないからこそ、多くの人が子供たちの明るさやパワーに元気づけられ、大変充実した活動になったと思います。

最後に、今回はひっじぐもの児童館担当が私に引き継がれて初めての大きいイベントでしたが滞りなく終えることができました。参加してくれた7人の方や児童館の職員の皆様へ感謝すると共にこれかもひっじぐも一丸となって児童館活動を盛り立てて行きたいと思っています。

最後に、今回はひっじぐもの児童館担当が私に引き継がれて初めての大きいイベントでしたが滞りなく終えることができました。参加してくれた7人の方や児童館の職員の皆様へ感謝すると共にこれかもひっじぐも一丸となって児童館活動を盛り立てて行きたいと思っています。



【クラブ 10月第一例会報告】 書記：小口

日時:2023年10月14日 13:00~15:00

会場:高尾の森わくわくビレッジ学習室

出席者:(敬称略)長谷川、菅野、小口、久保田、久保田
佐和子、茂木、茂木洋子

山本、並木、並木雍子

ビジター:森本俊子(あずさ部部長・長野クラブ)、本川悦子(東京西クラブ会長)

ゲスト:福田勝江、

ひつじくも:森脇啓心(3年)、藤原直輝(2年)、折原美結(2年)

以上16名

プログラム進行:司会、並木信一(C班)、

開会点鐘:会長代理、小口多津子(書記)

あずさ部森本部長の訪問挨拶: 部長クラブの長野クラブは、現在7名の会員でチャーターから13年目であること、森本さんはチャーター翌年に会長就任後からずっと続けてきていたが、部長になったことで会長をやっと青山さんとトントンタッチをした。長野クラブはメンバー数が少ないことで他クラブの応援がないと部長は出来ないの、前々年度部長を務められた、八王子クラブの長谷川あや子さんに書記をお願いしたこと。並木信一さんとは、東山荘での会長研修会で隣り合わせた縁でした。

食前感謝:並木信一さん

会食:わくわくビレッジ弁当

卓話:「私とハンドベル」長野クラブ森本俊子さん(あずさ部部長)

・YMCA諸報告:東京YMCA山中湖センター100周年事業のこと。

・久保田さんから、IBCの高雄ポートクラブのTom Chan氏から、皆さんへのメッセージの

USBメモリの説明です。(順次、回覧させていただきます)。

高雄中学(日本名は高雄高校、八王子東高校と姉妹校)

の同窓会を、Tomさんと友人の段ドクターが開催し、ウクライナ国民とロシア国民の平和のためのチャリティーコンサート。後半部分は、高雄高校の生徒の演奏。

スマイル:(12,200円)

ハッピーバースデー:小口多津子さん、並木真さん

閉会点鐘 :小口多津子会長代理

【クラブ 10月第2例会・報告】 書記 小口

日時:2023年10月28日 18:00~19:00

会場:北野事務所小会議室

出席者:(敬称略)長谷川、小口、久保田、並木(真)、望月、並木(信)、山本、7名

・協議・確認事項

1. 11月第1例会(ハイブリッド例会)A班

11月11日(土)18:00~20:00 北野事務所2F 会議室
菅野さんよりアドレス提示済み。卓話は、8月にAYC参加のひつじくもの5人の皆さんの報告。

AYC関連で、参加コースの支援クラブと報告会及び支援金表(最終版)を配布。

八王子クラブとあずさ部からの支援金は、この11月例会の時に、各自に手渡すことに。

2. 12月クリスマス例会 担当B班

12月9日(土)開始17時~、

第一部クリスマスメッセージ 千原 創牧師(八王子ベテル教会)、

第二部祝会・ピアノ(永町匡世さん)、バイオリン(阿部智世さん)演奏と会食

3. あずさ部第2回評議会・ホストは東京八王子クラブ

2024年2月10日(土)受付:12:30~ 評議会 13:00~
閉会 18:00

会場:高尾の森わくわくビレッジ 評議会と話し合い・研修室、懇親会・食堂、
会費 3,000円 → 予定3,000円

4. チャリティーコンサートと街頭募金 CS担当 花輪さん
(イ)街頭募金・2024年3月2日(日)13時~JR八王子駅北口

(ロ)チャリティーコンサート・2024年3月9日(土)14時~北野市民センター

*チャリティーの主旨(収益の使途)として、

対人地雷廃絶・クラスター爆弾廃絶→(JCBLへ)と
ウクライナ被災者支援→(YMCA同盟へ)

チラシ1,500枚、ポスター30枚、チケット500枚を印刷

5. YMCA山中湖センター100周年記念事業募金に、八王子クラブから30,000円を寄付。

・その他

・アジア太平洋地域大会(香港)11月2日~6日へ
参加者:久保田さん、並木(真)会長

・中央大学・白門祭(ひつじくもブースへ参加)

11月5日花輪、6日山本・小口

・八王子クラブ30周年記念会(2024年10月)
内容の相談は次回に。

中央大学 白門祭訪問記念

11月3日～6日・多摩キャンパスにて開催



5日訪問：花輪さん 店舗担当の皆さん↓



6日訪問小口さんと白羊会 店舗担当の皆さん

今月お誕生の方

花輪豊子さん 11月12日

山本英次さん 11月26日

10月の誕生記念：小口さん



あずさ部長野大会参加者



小口、衣笠さん、長谷川、福島住職、久保田、花輪の各氏

10月例会ゲスト・ビジター・メネット

